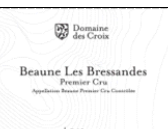
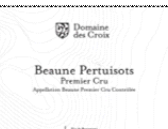


わずか22歳で、150年近い歴史を誇るネゴシアン：カミュー・ジルーの醸造長に抜擢されたのが2000年のこと。ダヴィッドは1978年、ロワールのトゥール生まれ。ブルゴーニュ大学醸造学部在籍時のコント・アルマンでの研修時代から、その手腕に注目が集まっていた。カミュー・ジルーで働きながら2005年に自身のドメーヌ・ダヴィッド・クロワを設立し、コート・ド・ボーヌ1級畑やコルトン・シャルルマーニュの畑を中心に生産を開始し、畑はバイオロジック栽培（認証なし）で管理。醸造哲学は「どの年に、どこで採れたブドウかというエスプリが、飲んだ時に感じられるワインを生むこと」。そのためにまず選果を徹底し、収穫時に畑内での選果の後、さらにセラー内で2回、選果を行う情熱を持つ。新樽率はグラン・クリュで20～30%程度。結果生まれるワインには古典的ニュアンスがあり、非常に洗練された現代ブルゴーニュと言えるだろう。全房比率は、キュヴェやミレジムによるけれども、10%から50%の範囲。地球温暖化に合わせて、全房比率を上げる傾向にあるそうで、果実味と清涼感のバランスを狙っている。全房醗酵は清涼感と骨格を与えるけれども、常にバランスの問題があるので区画によりVT毎に違う。

 Saint-Romain Appellation Saint-Romain Contrôlée Combe Bazin	○Saint Romain Blanc - Combe Bazin サン・ロマン・ブラン コンブ・バザン			備考	2020年に取得した畑で2020VTがファーストヴィンテージ。
	畑	品種：シャルドネ 位置：標高350m 土壌：粘土・石灰質	醸造 500Lの木樽で発酵、1年間熟成 その後ステンレスタンクに移してさらに6か月間熟成		
 Corton-Charlemagne Appellation Corton-Charlemagne Grand Cru Contrôlée	○Corton-Charlemagne Grand Cru コルトン＝シャルルマーニュ・グラン・クリュ			備考	新樽比率は20%と高くはない。土壌由来のミネラル感と、高い果実の凝縮感と、シュールリー熟成によるふくよかさが、高い次元でまとまっている。
	畑	品種：シャルドネ100% 植樹：1985年、1989年 位置：南東 土壌：泥の多い泥灰土、石灰質	醸造 低温下で24時間デブルバージュ 木樽で醗酵、パートナーージュは行なわない。 木樽で12か月間の熟成後タンクで6か月間熟成		
 Bourgogne Appellation Bourgogne Contrôlée	●Bourgogne Rouge ブルゴーニュ・ルージュ			備考	プイエ（Pouillet）と呼ばれるサヴィニー・レ・ボーヌ・ヴィラージュから格下げされた区画からの醸造。ほぼ100%除梗し、明るい果実味に仕上げる。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1971年 土壌：水はけの良い砂利、砂質土壌	醸造 開放桶で2週間マセレーション 木樽（古樽その内約5%新樽使用）で12か月間熟成後、タンクで6か月間の熟成		
 Beaune Appellation Beaune Contrôlée	●Beaune Rouge ボーヌ・ルージュ			備考	村名「Blanches Fleurs」&「Blanchisserie」と1erクリュ「Teurons repliée」&「Tuvilain」4つの畑のブレンド。新樽はなしが、5-10%で、ブドウの果実味を前面に表現。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1957年、1974年、1983年 土壌：粘土・石灰質	醸造 開放桶で2週間マセレーション。 木樽（古樽その内約5%新樽使用）で12か月間熟成後、タンクで6か月間の熟成		

		●Aloxe Corton Rouge - Les Boutières アロース・コルトン・ルージュ レ・ブティエール		備考	シヨレ・レ・ボヌや、ペルナン・ヴェルジュレスに隣接する区画。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1955年 土壌：シルトと粘土を多く含む茶褐色の土壌	醸造		
		●Savigny-Lès-Beaune Rouge 1er Cru - Les Peuillets サヴィニイ＝レ＝ボヌ・ルージュ・ブルミエ・クリュ レ・ピエ		備考	区画名は“若木”を意味し、もともとは林だったと考えられる。更には、川の出口が形成した扇状地とも考えられ、砂を多く含んだ土壌。その分水はけがよい。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1971年 位置：標高245m、南東向き 土壌：砂を多く含む粘土石灰質、下層土は沖積土	醸造		
		●Beaune 1er Cru - Les Cents Vignes ボヌ・ブルミエ・クリュ レ・サン・ヴィーニュ		備考	区画名は、ボヌに1250年前から存在するSanvigneという区画名に由来。砂利や小石が多く、とても水はけのよい畑であるという性質上、他よりもやや早期熟成するエリア。どのヴィンテージを飲んでも優しさ、繊細な味わいを基調とするキュヴェ。強さを感じるようなものではなく、まろやかさと包み込むような優しさが特徴の畑。同じ斜面の上方には1級畑のレ・ブレッサンドがある。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1956年、1968年 土壌：砂質粘土・石灰質	醸造		
		●Beaune 1er Cru - Les Tuvilains ボヌ・ブルミエ・クリュ レ・テュヴィラン		備考	同じ斜面の上方に1級畑のペルテュイゾがあり、テュヴィランはこの最初の1級畑となる、比較的低地でなだらかな斜面の畑。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1930年 位置：ボヌ南部 土壌：茶褐色の粘土質土壌	醸造		
		●Beaune 1er Cru - Les Bressandes ボヌ・ブルミエ・クリュ レ・ブレッサンド		備考	ブレッサンドとは、13世紀に畑の持ち主であったジャン・ブレッサン(Jean Bressans) から由来とされる。Les Grevesと同じ地層を持ち、同じ斜面の下方には1級畑のレ・サン・ヴィーニュがある。ブルゴーニュでは高度も斜度もある畑のため、非常に筋肉質なストラクチャーのワインができてくる。血を流す動脈というフランス語の言い回しのように、力強さ、男らしい、強さ、張り伸びをもつ。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1985年、1989年、1993年 位置：標高300m、東向き、傾斜30度 土壌：石灰の小石の混ざった粘土質	醸造		
		●Beaune 1er Cru - Pertuisots ボヌ・ブルミエ・クリュ ペルテュイゾ		備考	排水溝を意味する区画名だが、斜面の下の方の区画というわけではなく、緩やかな斜面の中腹にある。同じ斜面の下方には1級畑のテュヴィランがある。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1971年、1987年 土壌：下層にジュラ紀の石灰岩、上層40～50cmは茶褐色の粘土質土壌	醸造		

		●Beaune 1er Cru - Les Grèves ポース・ブルミエ・クリュ レ・グレーヴ			備考	レ・グレーヴ（ブドウ栽培に適した砂地の意味）。ブレッサンドも同じ地層にあり、地質も比較的似ている。ワインになりたてのころから、より複雑味が増して、広がりを楽しむにもたらず、より複雑なワインと言える。ダヴィッドのワインは更に、緻密なタンニンと長い奥行きが特徴。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1968年 位置：標高230m 南東向き、傾斜5〜15% 土壌：砂利混じりの粘土・石灰質	醸造	開放桶で3週間マセレーション 木樽（古樽その内約5%新樽使用）で15ヵ月間熟成後、タンクで6ヵ月間の熟成		
		●Corton Gaud Cru - La Vigne au Saint コルトン・グラン・クリュ ラ・ヴィーニュ・オ・サン			備考	コルトンの丘の西側斜面中腹の特級畑。レ・コンブとレ・ショームの1級畑と、特級畑に四方を囲まれている。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1960年 土壌：下層にジュラ紀の石灰岩、上層40〜50cmは茶褐色の粘土質土壌	醸造	開放桶で3週間マセレーション 木樽（古樽その内約5%新樽使用）で15ヵ月間熟成後、タンクで6ヵ月間の熟成		
		●Corton Gaud Cru - Les Grèves コルトン・グラン・クリュ レ・グレーヴ			備考	グレーヴ（ブドウ栽培に適した砂地の意味）の名の通り、砂質を含む土壌。レ・ペリエールと同じ斜面のすぐ真下の区画。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1960年 土壌：下層にジュラ紀の石灰岩、上層はchaillesと呼ばれる石を多く含む茶褐色の粘土質土壌	醸造	開放桶で3週間マセレーション 木樽（古樽その内約5%新樽使用）で15ヵ月間熟成後、タンクで6ヵ月間の熟成		